

# 「芥川龍之介の 槍ヶ岳登山と河童橋」

話題提供 **牛丸 工さん** (山岳歴史研究家)  
日 時 **7月9日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)  
会 場 **あがたの森文化会館講堂第一会議室** 参加費 200円  
定 員 **先着40名** (電話での事前申し込みが必要です)

芥川龍之介は東京府立三中(現在の都立両国高校)3年のとき、学友5人で案内人を雇い、明治42(1909)年8月12日、槍ヶ岳に登頂した。

この登頂については長い間、芥川は槍ヶ岳に登頂したか否か、論争が続いたが、昭和47(1972)年、芥川と一緒に槍ヶ岳に登頂した中塚癸巳男の回顧録『一高旅行部楡の会』にある「失いし山仲間たち」によって、登頂したことが分かった。

文学青年でひ弱なイメージの芥川であるが、当時の学生は全国どこでも“遠足”と称して長い距離を歩くことが盛んであり、芥川も前年には諏訪から軽井沢まで歩いていて、槍ヶ岳登山を含め、スポーツマンの一面もある。

その芥川龍之介の槍ヶ岳登頂100年を記念して、芥川の槍ヶ岳に特化した記念本を、芥川文学研究者の伊藤一郎(当時東海大学文学部教授)、布川欣一(山岳歴史研究第一人者)と私の共著で、幾つかの新発見を含め、それまでの芥川研究の間違いも指摘して、2008年に出版した。

今回のサロンでは、今まで間違っていた芥川の槍ヶ岳登山の常識と新たに発見した事実を、松本駅から槍ヶ岳登山の足跡をたどり、さらに河童橋との係わりについて、貴重な古い写真とともに話題提供します。

牛丸工(うしまる たくみ)さんは1956年、旧安曇村島々生まれ。明治大学文学部卒業。35歳で東京からUターンして旧安曇村役場の上高地観光施設事業に勤務。上高地徳沢ロッジ支配人を経て、平成17年市町村合併により松本市職員となる。主な著書に『内野常次郎小伝』(日本山書の会)『上高地の常さん』(信濃毎日新聞社)があり、論文には『松本市史研究 松本市文書館紀要第27巻』収録の「BC級戦犯の遺品 巢鴨プリズンから持ち出したもの」など。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催 サロンあがたの森実行委員会 共催 旧制高等学校記念館・記念館友の会

問合せ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986